
詩集 ミチビト

麟龍凰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩集 ミチビト

【Nコード】

N7642X

【作者名】

麟龍凰

【あらすじ】

作者が感じたことをリアルに書き写そうと思います。なので視点も口調もよく変わると思います。ちなみに更新不定期です。

涙の跡

悲しい時に泣くならば
こんな機能はいらなかった
うれしいときに笑うのなら
もっと笑わせてほしかった
いつでもぼくらは泣いていて
いつでもぼくらは笑いたくて
もっと笑う機能を増やしてほしかった
泣く機能を消してほしかった
だけどその機能があるからこそ
今の僕がいるんだって
そう気付いた時
涙が出た

ケンカピト

ぼくは自分が好きですか？ と、自問自答する日々です
嫌いな時もあれば、好きになる時もある
ぼくらはいつでも自分とケンカして
さらには友達ともケンカして
いつでも後悔しちやってる
その時の自分は好きですか？ と、自問自答する日々です

慧日記

今日も日記帳を開き 文字を書いていく

だけどそれが続けている内に書くことが無くなって

いつだが同じようなことを書いていた

なにをしてもなにをやっても なんだか全てが同じの様に見えて

ぼくは書くのを止めました

月×日 曜日

今日の空は曇っていた

月×日 曜日

今日も空は曇っていた

月×日 曜日

今日だけなぜか晴れていた

そんな感じで変わったことが時々あったのは

たわいもない日常を暮らしてきたからです

写真像

あの写真のなかには 昔のぼくが映っていて
なんて楽しそうに笑っていた
いつもみるたび思い出す 昔の楽しそうなぼくを
いつからだっけな
未来を考えるのが怖くなったのは
いつからだっけな
後ろを振り返るのが楽しみになったのは
そのたびにナニかを落としそうになって
だからまた前を向いて歩きだす
写真の中のぼくは
楽しそうに笑っていた
その笑顔を落としそうになるたびに
後ろを向くのをやめてしまう
昔のぼくは
楽しそうに笑っていた

カンガエビト

いつもぼくらは探してた
届きそうでも無くしてしまう
生きている意味を

なぜぼくらは生きてるんだろうと
思ってからこの世界が
なんのために存在しているのか分からなくなった
友達がいつも愚痴をこぼしている

「生きるのめんどくさい」
うるさいんだよ、と
心の底で思っていた
そんなのだけれどもだろうとその時思っけど
ぼくが悩むと ぼくだけ特別に見えた

ぼくはいろんな悩みを抱えている
何故生きるんだろうと考えている
そんなこと自分だけじゃない
みんな考えているよ

スタイリッシュ（前書き）

そうやって大人になっていくんでしょうね

スタイリッシュ

望みが一つ叶ったら
昔の望みは薄れていく
望みが叶えば叶うほど
昔の望みは当たり前のように叶う
大人のお金の価値観と
子供のお金の価値観はちがう
大人になればなるほど
いろんな価値観は薄れていく
当たり前のように流していた涙も
流し続けると恥ずかしくなってやめる
昔はよく泣いたねっていうことは
今はもう泣けない
そうやって成長していくたび
なにかを無くしている
そうやって人生を歩いて行くとたび
なにかを落としている
それに気づかないまま
ぼくは進んでいる

ヤブレカブレ（前書き）

平等と見せかけて、全て不平等なのかもしれませんね

ヤブレカブレ

死とは平等に与えられるもののに

生きている間は不平等

それに耐えきれず死んで行く人もいるのに

なぜかだれもこのルールを変えられないんだろう

気に入らないルールならそれを破りたい

でも破れないというルールがある

いったいこの世界のルールは誰が決めたんだ

生きていくといつと（前書き）

そう思うと、すごい幸せなことですよ

生きているということ

なんのために生きているのかなんて

生きているうちに考えなくてもいい

ただ いまを生きているということ

知ることが出来たらそれでいい

所詮は死んでいく命なのだから

生きている今を楽しむことができればそれでいい

テストで悪い点を取った

友達とケンカしてしまった

先生に怒られてしまった

そんなことで人生は終わらない

そんなことで生きているということが揺らぐことは無い

勉強さえできない人たちが

今も飢えて死んでいる

だったら 勉強ができるということ自体が幸せだと思っ

今の日常が続くこと自体が幸せだと思う

たった一つの嫌な出来事など

すぐに別の事で埋もれて行く

絶望が多いほど 希望も多いのだから

明日の楽しみを忘れず生きていこう

つながり（前書き）

全ての人間の遺伝子をたどると、一人の女性にたどり着くそうです。
（違ったらごめんなさい）
それを思って書きました。

つながり

昨日の自分はただの他人
今日の自分とはまったく違う
だから今日失敗しても
明日にはそれは他人事
明日の自分を創るのは自分
明日になれば
自分は他人に造られた
それでも明日には確かな自分がいて
その明日にも確かな自分がいる
過去の他人に感謝をしよう
今のぼくを創ってくれたことを

希望の光

前さえ見えない暗闇だった
それでもぼくは進んでいく
進まなければならなかった
だれかがぼくの背中を押すから
望んでもない前進が
ぼくを恐怖に突き落とす
そんなとき見えた微かな光
それを求めて全力疾走
手を伸ばしてつかみ取ったその光
一生そばにいてくれという願いは
誰も叶えてくれなかった
数時間たったら消えていた光
それを求めてまた歩く
身も心もボロボロとなり
挫折しかけたその瞬間
再び光が顔を出す
傷はすぐに治った
だけど走らなかった
手を伸ばせば簡単に届いてしまったから
こんな物のために頑張っていた
だけ
これが無ければ頑張れなかった
消えてもいい
だけどまた顔を出して
希望という慰めの光

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7642x/>

詩集 ミチビト

2011年12月1日19時54分発行